品番　CF-C1 シリーズ
（Windows 7）

必ずお読みください

本書は、レッツノートを安全にお使いいただくために特に注意していただきたい点と、「よくある質問」について説明します。『取扱説明書 基本ガイド』の「安全上のご注意」と合わせて、必ずご使用前にお読みいただき、安全にお使いください。

画面に黒い点や色が付いている点がある!
➡3ページの④

LANまたはモデムを使うときに気を付けること
➡6ページの⑩

バッテリー駆動時間が短い!
➡2ページの②

WordやExcelを使うには
➡3ページの③

Windows起動時に音が途切れる!
➡4ページの⑦

PCカードが認識されない!
➡6ページの⑨

メモリー容量について
➡4ページの⑥

WiMAXまたは無線LANがつながらない!
➡5ページの⑧

ディスプレイの扱いはていねいに!
➡3ページの⑤

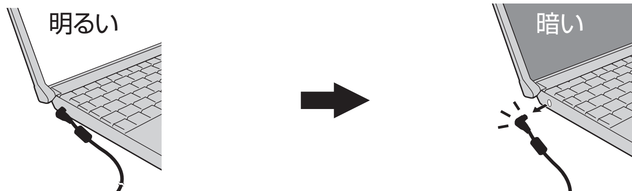
ACアダプターを抜いたら画面が暗くなった!
➡2ページの①

SS0510-0
DFQW1284ZA



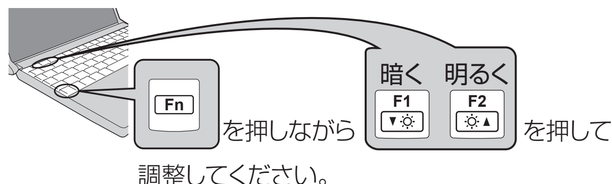
Printed in Japan

① ACアダプターを抜いたら画面が暗くなった！



これは故障ではありません。

● Fnキーを使って明るくするには



調整してください。

● タブレットボタンを使って明るくするには



を押して調整してください。
押すごとに明るさが変わります。

ただし、明るくするとバッテリーの駆動時間は短くなります。
詳しくは、『取扱説明書 基本ガイド』の「画面の明るさを調整する」をご覧ください。

② バッテリー駆動時間が短い！

バッテリーの駆動時間は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
（例えば、画面を明るくして使っているときは短くなります）
・電源プランを[パナソニックの電源管理（省電力）]に設定する。
・画面を暗くする。
・起動しているソフトを閉じる。
・バッテリーのエコノミーモード(ECO)を無効にする。
などの方法で、より長く使用することができます。

● 駆動時間の測定方法
バッテリーの駆動時間は、他のメーカーとの比較のために共通の測定法として社団法人 電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver.1.0）」を採用しています。測定された数値は、次の2つの方法でバッテリーが動作する時間を測定し、その平均をとった値です。
・負荷をかけた状態での測定方法（測定法a）
内部LCDの輝度（明るさ）を20cd/m^{2}に設定し、指定の動画ファイル（MPEG1形式）をハードディスクから読み出しながら再生し続ける。
・負荷をかけない状態での測定方法（測定法b）
内部LCDの輝度を最も暗い状態に設定し、デスクトップ画面を表示したまま放置する。

20cd/m^{2}の設定方法および輝度を最も暗くする方法：
『取扱説明書 基本ガイド』の「バッテリーについて」をご覧ください。

JEITA測定法は画面を暗くするなど消費電力を抑えた状態で測定しているため、画面を明るくして使っていたり、アプリケーションソフトをたくさん起動していたりすると、駆動時間はJEITA測定法の値よりも短くなります。

詳しくは、『操作マニュアル』「(バッテリー)」およびJEITAのWebサイト（http://it.jeita.or.jp/mobile/）をご覧ください。

③WordやExcelを使うには

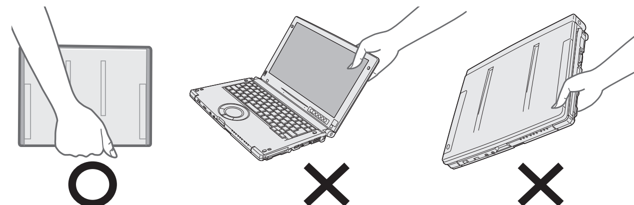
Microsoft® Office WordやMicrosoft® Office Excelを使うには、Microsoft® Officeのパッケージなどが必要です。

④画面に黒い点や色が付いている点がある！

これは故障ではありません。
カラー液晶ディスプレイは精度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯（緑、赤、青色）するものがあります。これは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。（有効画素が99.998%以上　画素欠けなどが0.002%以下の場合は、故障ではありません。）

⑤ディスプレイの扱いはていねいに！

ディスプレイの取り扱いには十分注意してください。



● ディスプレイやディスプレイの周りのキャビネット部およびタブレットボタン部を持って運ばないでください。

⑥メモリー容量について

RAMモジュールの交換・取り付けの際は、推奨のRAMモジュールをお使いください。

● 推奨のRAMモジュール
パナソニック製　CF-BAC02GU（2GB）
　　　　　　　　CF-BAC04GU（4GB）

● RAMモジュールの取り付け/取り外し
『取扱説明書 基本ガイド』または『操作マニュアル』「（周辺機器）」の「メモリー容量を増やす」をご覧ください。

● メモリー容量および拡張メモリースロットの仕様
『取扱説明書 基本ガイド』などの「仕様」をご覧ください。

● 交換または増設後、電源が入らない場合
RAMモジュールを取り外して再度電源を入れてください。
RAMモジュールを外すと電源が入る場合は、RAMモジュールの問題が考えられます。本機の電源を切り、推奨のRAMモジュールであることを確認し、正しく取り付け直してください。

⑦Windows起動時に音が途切れる！

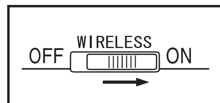
Windowsの処理状況によっては、Windows起動時に音が途切れる場合があります。次の手順で起動時の音が鳴らないように設定することができます。

① デスクトップで右クリックし、[個人設定]をクリックします。
② [サウンド]をクリックし、[Windows スタートアップのサウンドを再生する]をクリックしてチェックマークを外し、[OK]をクリックします。

⑧WiMAXまたは無線LANがつながらない！

WiMAXと無線LANは同じ通信モジュールを使用しているため、同時に使うことはできません。
WiMAXをオンにすると無線LANは自動的にオフになり、無線LANをオンにするとWiMAXは自動的にオフになります。
WiMAXまたは無線LANを使うときは、次のことを確認してください。

● 本体前面の無線切り替えスイッチがON側（右側）にあること
無線切り替えスイッチ



● お使いになる無線機能が無線切り替えユーティリティでオンになっていること
確認方法：
① 画面右下の通知領域のをクリックします。
② またはをクリックします。
③ お使いになる無線機能（[無線LAN オン]または[WiMAX オン]）をクリックしてチェックマークを付けます。
チェックマークが付いている場合はすでにオンになっています。再度クリックする必要はありません。



無線LANとWiMAXを同時にオンにすることはできません（同時に使うことはできません）。



メモ

セットアップユーティリティの「詳細」メニューの[無線切り替えスイッチ]を[無効]に設定していると、無線切り替えスイッチや無線切り替えユーティリティを使って無線機能をオン/オフすることはできません。次の手順で[有効]に設定してください。（初期設定は［有効］）
① 本機の電源を入れ、起動後すぐ「Panasonic」起動画面が表示されている間に F2 または Del を押す。
②「詳細」メニューで、[無線切り替えスイッチ]を[有効]に設定する。
③ F10 を押して確認のメッセージが表示されたら[はい]を選び、Enter を押す。

⑨PCカードが認識されない！

PCカードをお使いになるときは、ドライバーなどのインストールが必要になる場合があります。PCカードに付属の説明書もご覧ください。また、PCカードによっては、本機に正しく接続しても動作しない（PCカードが認識されない）場合があります。
PCカードが動作しない場合は、次の手順でセットアップユーティリティの設定を変更し、PCカードが動作するか確認してください。

① 本機の電源を入れます。または、Windowsを終了して再起動します。
② 本機の起動後すぐ、「Panasonic」起動画面が表示されている間にF2またはDelを押し、セットアップユーティリティを起動します。
パスワード入力画面が表示された場合：
不正使用を防止するためのパスワードが設定されています。スーパーバイザーパスワード（管理者用のパスワード）を入力し、Enterを押してください。ユーザーパスワード（管理者以外の方が使うパスワード）では、以降の操作を行うことができません。
③ ←と→を使って[詳細]メニューを選びます。
④ ↓と↑を使って[PCカードスロット]の下の[設定]を選び、Enterを押します。
[設定]がグレー表示になって選べない場合：
[PCカードスロット]が[無効]に設定されています。[PCカードスロット]を選びEnterを押し、[有効]を選んでEnterを押してください。
⑤ [互換モード]を選び、Enterを押します。
⑥ F10を押します。
⑦ [はい]を選び、Enterを押します。
セットアップユーティリティが終了し、パソコンが再起動します。PCカードが動作するか確認してください。上記設定を行っても動作しない場合は、[設定]を[標準モード]に戻し、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

⑩LANまたはモデムを使うときに気を付けること

⚠注意

LANコネクターに電話回線や指定以外のネットワークを接続しない


禁止

LANコネクターに以下のようなネットワークや回線を接続すると、火災・感電の原因になることがあります。

- 1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T以外のネットワーク
- 電話回線（IP電話、一般電話回線、内線電話回線（構内交換機）、デジタル公衆電話など）

モデムは、一般電話回線で使用する（モデム搭載モデルのみ）



会社、事務所などの内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話に接続したり、本機で対応していない国や地域※1で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

・電話回線について詳しくは、電話会社または電話回線の管理者にお問い合わせください。

※1 モデムが対応している国や地域については、モデム搭載モデルの仕様をご覧ください。